

岡部定一郎「福岡城寸描」(11)

1. 福岡城の構え

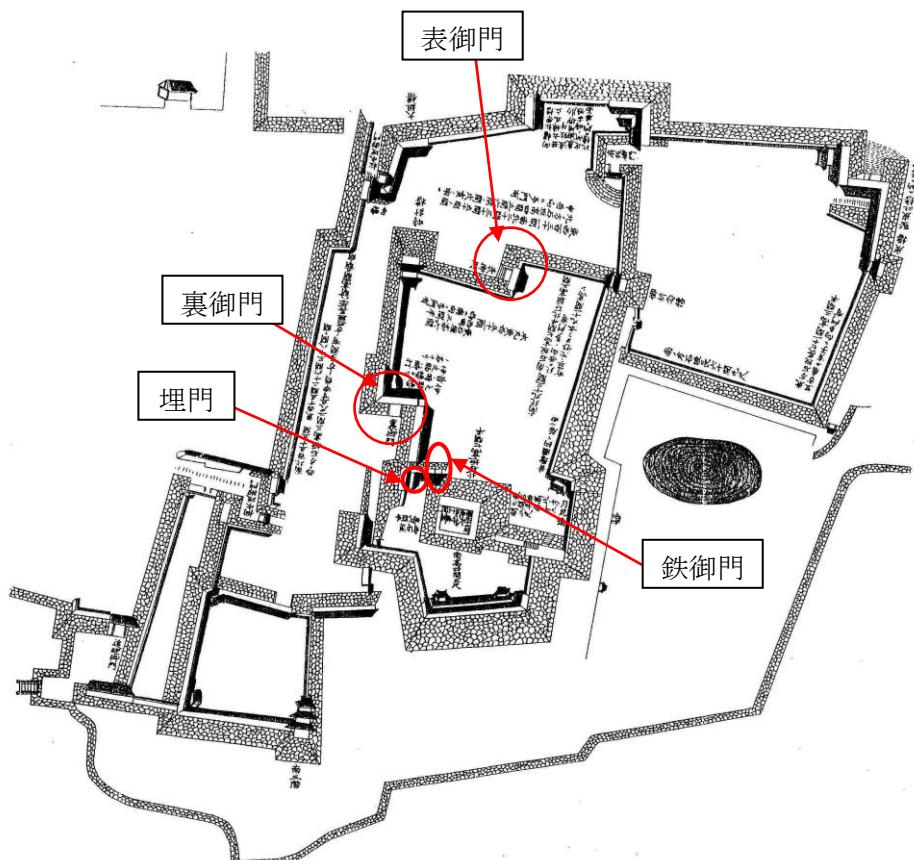


福岡城本城内の城門いろいろ（その2）

二の丸から三の丸へは二つの御門
本丸台地から天守閣台へも二つの御門

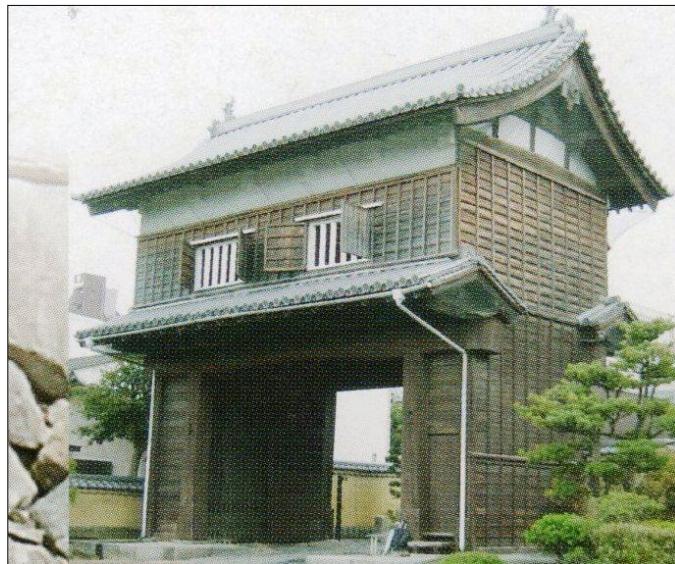
福岡城内には、色々な黒田騒動にからむ物語がある御門がある。本丸台地には、黒田御殿があり、「本丸表御門」は、今でも千代町の黒田家菩提寺「崇福寺」の正面山門として立派に残っている。

一方、「本丸裏御門」も櫓造りの御門が絵図面できちんと残っている。
天守閣へは、今の所、^{くろがね}鉄御門を上り、戦いの際には上の櫓を落として敵の侵入を防ぐ役割を持つ埋門(※)を通って這入る。また、中天守閣表玄関が天守閣入口の役割を持っていた。
これら重厚なお城としての格式をもって組み立てられ、色々な役割を持った城門等を、本丸を含め、是非とも復元したいものである。





「本丸大手御門」の古写真
(「福岡城趾保存整備基本構想」より)



「福岡城表御門」を移築した「崇福寺」山門
(「福岡城趾保存整備基本構想」より)

※【埋門】うずみもん

石垣や土塹などに埋め込まれたように設けられた小さな門の一つで、トンネルのような形状をとることから穴門（あなもん）ともいう。門前後を隔てる障壁、渡櫓（わたりやぐら）が高い場合、門前後に高低差がある場合に設けられる。姫路城「る」の門が代表例である。この門は、菱の門から「る」の門へ抜ける近道となる副次的な存在で、通路には内開きの扉がついていた。有事の際には門内を土砂で埋め、敵の侵入を遮ったという。〈「日本歴史大事典」より〉